

平成30年度第1回岐阜県総合教育会議 議事録

1 開催日時及び場所

平成30年6月18日(月) 14時30分 ~ 15時42分

岐阜県庁舎 4階特別会議室

2 出席者

知事 古田 肇

教育長 安福正寿

委員 稲本 正

委員 野原正美

委員 竹中裕紀

委員 近藤恵里

(森口祐子委員は欠席)

4 オブザーバー

副知事 河合孝憲

清流の国推進部長 兼山鎮也

副教育長 内木 禎

5 陪席

清流の国づくり政策課長 辻川和希

教育総務課長 平野孝之

6 議事録

別紙のとおり

議 事 録

発 言 者	発 言 内 容
清流の国 推進部長	<p>これより平成30年度第1回岐阜県総合教育会議を開催する。</p> <p>本日は、教育大綱と教育ビジョンについて、それぞれ見直しの時期を迎えているため、次期岐阜県教育大綱の策定について、第3次岐阜県教育ビジョンにおける課題についての2点を議題とさせていただきます。</p> <p>現在の教育大綱と教育ビジョンは、それぞれ関連しているため、一括で資料を説明させていただき、意見交換を行う。</p>
<p>次期岐阜県教育大綱の策定について</p> <p>第3次岐阜県教育ビジョンにおける課題について</p>	
清流の国 推進部長	資料1により説明
副教育長	資料2、3により説明
意見交換	
野原委員	<p>前回の策定時に、教育大綱と教育ビジョンとの関係について説明いただいた。3年が経ち、大綱の7つの基本目標のうちスポーツや文化が教育委員会から知事部局に分かれ、カバーする部門が少しずつ変化しているのを感じている。そうした部分の摺合せやカバーについては、教育委員会だけでなく、知事部局の関係する部局とも大綱をどのように実現していくか話し合いがなされていると思うが、縦割りにならないようお願いしたい。</p> <p>次期大綱の期間は、現在より長い5年間であり、漏れのない取組みが必要。資料2の1～6については、大綱の基本目標の何番をカバーしているかが書かれているが、それが全てではないということをいつも忘れてはいけないと感じている。</p>
副 知 事	<p>教育大綱という大きな方向性を示すものがあり、その下に、それを実際に実現していくためのアクションプラン的な計画がいくつかある。その中心となっているのが、この教育ビジョンである。</p> <p>それとは別に、これまでも、かつては教育委員会の方で策定されたが、スポーツで言えばスポーツ推進計画、文化で言えば文化振興指針、生涯学習という観点で言うと生涯学習指針という計画がある。</p> <p>計画によって異なるが、概ね2～3年後くらいに、今ある計画の見直しの時期になる。今回作業を進めているのは、教育大綱と教育ビジョンの見直しだが、スポーツなど他の計画については、今回見直しを行う教育大綱を踏まえて見直しの作業がでてくる。見直し作業は、かつては教育委員会で全てやられたが、スポーツや文化が知事部局へ移管していることから、知事部局が中心となって行う。</p> <p>また、スポーツや文化など、知事部局が所管する分野についても、学校教</p>

	<p>育が避けて通れず、教育委員会としても取り組んでいくものに対しては、教育ビジョンの中に盛り込んでいく。</p> <p>概ね、このような整理である。</p>
知 事	<p>これは、岐阜県だけの問題ではなく、全国的な問題である。</p> <p>岐阜県が知事部局に文化行政やスポーツ行政を移したが、教育だけの問題ではなく、もっと広い問題で取り上げ、位置づけを変えたということで、政府において非常に高く評価されており、できるだけ岐阜県と同じことを他県にもやらせてもらおうという国の方針であるが、強制するわけにはいかないため、法律改正を行い、「知事は何々することができる」という条文を置いた。その心は、岐阜県モデルに移行してもらいたい、というもの。</p> <p>過渡期であるため、教育委員会でやっている県もあれば、知事部局でやっている県もある。唯一、この総合教育会議が今までなかった知事部局と教育委員会が一緒になってやる仕組みであるため、ここがいわば接点の役割をしている。どちらでやろうが、最後は総合教育会議で意思の摺合せを行えばよいということ。</p> <p>それから、スポーツに関する今の法律は、主語は、「教育委員会は」となっており、教育委員会がやることになっている。</p> <p>ところが、知事部局へ移してもよいという方針なので、制度的にどうするか。岐阜県がこれに対してどうやっていくかが見られているが、一番筋道に沿ったやり方をやっていけばよい。最終的な接点は、この場で整合性が図られる。</p> <p>逆に、教育の世界から文化やスポーツが全て無くなっても困る。</p>
野原委員	<p>資料に「オールぎふ」という言葉があったと思うが、皆で教育を支えていく、人材を育成するということに関わっていることがはっきり分かってくると思う。</p> <p>大綱を初めて策定した時は、どのように認識したらよいのか、うまく把握できなかった。</p>
副 知 事	<p>教育ビジョンは平成20年度から策定しているのでベースはあったが、教育大綱は初めて策定したので、どういうものを作ったらよいか、イメージが難しかったかもしれない。</p>
知 事	<p>国の方針では、教育ビジョンをもって教育大綱に替えてもよいと書いてある。ますます混乱させるようになっていた。</p> <p>当時は、3年経ったら、摺合せできる形に持っていきましょう、と整理していたが、その時期が来たということ。</p>
竹中委員	<p>教育大綱というのは、基本目標が7項目書いてあるが、中身そのものについては全く異存もなく、この通りだと思う。</p> <p>しかし、ここから教育ビジョンを展開しようと思うと、予算的な措置にどこまで踏み込むのか、また、目標値がないため、これをどこまでやるのか。</p> <p>確かな学力の育成や、今日的な問題をとっても、これをどこまで詰め込んでいったらよいのか。教育ビジョンの中でも出てくるが、エアコンがついていない学校がたくさんあるが、それは、何に基づいて動き出すのか。</p> <p>郷土を愛し、他者を思いやるという「清流の国」には大賛成。海外からの観光客がどんどん増えているが、日本はとても清潔感があるし、人もいいが、外交では、全く論戦に勝てない。ロジカルシンキングとか、ディベートとか、</p>

	<p>国会中継を聞いていても論戦になっていないところがある。</p> <p>逆に、国の次期学習指導要領を見てみると、専らその辺の弱点を強化していく動きが見られ、いよいよ対応をとらなくてはならない。岐阜県の中でも、グローバル化を謳っているが、教育の芯のところ、弱点を補っていく必要がある。</p> <p>労働環境は徹底的にやっていただきたい。</p> <p>エアコンだけでなく、ICTをどこまで進めるのか。世界がこれだけ動いているときに、遅れをとっていいか。働き方改革の一角にもなるのでやるが、大綱においても、これくらいまではやるという方向性があると、ビジョンの方も動きやすいのではないかと思う。せっかくなら、ちょっと踏み込んでもらえるといい。ただ、予算といっても、金だけ持ってくる問題でもなく、地域も巻き込んでいろんなことをして盛り上げていかなければならない面もある。</p>
知 事	<p>一番割り切ったやり方は、大所高所の議論は大綱で決めておいて、それを教育という場面でどう具体化するかというアクションプランみたいなことを教育ビジョンで書くという方法である。アクションプランであるため、目標やレビューもできて、どこまでやったか、次はどこまでいくかが明確になる。ビジョンはどこまでアクションを含むかというのはあるが、大綱とビジョンとが並ぶとなると、ビジョンの方は竹中委員がおっしゃるように、予算的な面や制度的な面を具体的にどう進めるのか、各論にもっと踏み込んだ方が分かりやすいと思う。</p>
竹中委員	<p>大綱には骨格があり、ビジョンはどちらかという実行面である。先に大綱の中で大枠を決めておいてビジョンに落としつけていかないと、行ったり来たりになってしまうのではないかと思う。</p> <p>ビジョンについては、自主的に勉強させるアクティブラーニングが動こうとしている。中学生くらいまでに教育の意識付けや動機付けができるとうい。将来の目標を捉えているか、捉えていないかによって、高校生活が大きく変わってしまう。そうなってくると、当然、普通科や専門高校の問題にも波及してくる。中学生の頃に将来の方向性について考える機会がたくさんあり、ある程度定まるとよい。わかりやすいのは、医者になろうと思っている子は、最初から目標を持ち、先生が言わなくても勉強は能動的にやる。これと同じようなことがいっぱいある。地域の産業に貢献できる人材の育成といったことが資料に書いてあるが、もっと若いうちから動機付けして、専門学校へもどんどん行かせる方法もある。普通高校から専門大学へ行くのがよいのか、はたまた、もっと若いうちに専門高校から専門大学へ行った方がよいのか、考えていかないといけない。これから世界が変わっていくときに、ICTの世界では、若くないと対応できない。</p> <p>専門高校を視察したが、ものすごく意欲的だった。専門高校から大学への進学率が高くなっていたが、もっと明確にして、専門的な力を付けて地域に就職していく子や、専門を究めて更に大学、大学院、研究所に進む子がいる。それが岐阜県の特徴であり、まだ更に伸ばせる可能性があると思う。</p>
知 事	<p>竹中委員の会社の中でも同じようなことが起きていると思うが、日本がIoTで遅れをとっている理由の一つに、会社の年功序列、秩序があるという指摘がある。学校を出ると、まず、下働きや雑用をやり、上から叩かれて、時間とともに地位が上がっていく。目標が単純ではっきりしているうちは年功序列でも良いが、若い人ほど活躍をしなくてはならないというような職場環境なり抜擢なりになっているか。そこが日本が世界に、特にIoTで遅れをとっている最大の原因だと仰る人もいる。</p> <p>今度、ソフトピアに、IoTコンソーシアムができ、既に180の会社、</p>

	<p>団体が入っている。IoTの導入について、もっと積極的に情報交換し、必要なら技術開発し、あるいは、研修や意識改革をやり、徹底してIoTを導入するんだとお互いに刺激し合っていく。また、I AMASでも、一年でマスターが取得できるIoTのコースを提供する。</p> <p>産学官連携という時の、中学生、高校生とかのレベルの教育とのタイアップをきちんとしていくことは、流れとしてはよいと思う。そこは皆さん痛感していると思う。</p>
竹中委員	<p>高校では、今後、IoT関係の授業が順に組み込まれていくと思うが、今はまだない。</p> <p>どの会社もIoTやAIの導入には積極的。モノづくりの品質が良くなるというのはあるが、どちらかというと、機能部門や開発の中で使っていくので、働き方改革の一環として取り入れている。</p> <p>例えば、学校の働き方改革には、いろんな問題がたくさんある。問題点を解消していくのは、優秀な先生にはキャリアを積んできたノウハウが蓄積されているので、それをマニュアル化し、電子化して自動的に継承できると無駄な時間はかなり削減される。ただし、企業と教育界とは違うと思うので、その辺もうまく考えていく必要がある。</p>
知事	<p>リテラシーのところのレベルは差がついている。学校でリテラシーは教えていないのか。</p>
竹中委員	<p>私どもは、どちらかと言えば、ホワイトカラーの生産性。結局は日本人の良さである、上下関係や、和をもって先輩を立てること、空気を壊さないようにすると、どうしてもマンネリの中に入っていくってしまう。しかし、問題意識を持って最初から変えていくのが仕事、活動だと思えば、突破できる。</p> <p>そこをどうやって変えるか、なかなか難しいように見えるが、変えた会社は成功していくし、やらないといつまでたっても駄目だろう。</p>
知事	<p>最近何年間かで起こっている新しい現象で、教育の世界でも対応しなくてはならない問題をどこまで拾うか、というアプローチの仕方もある。</p> <p>例えば、LGBTを高等学校の教育の段階でどう教えていくか。運動部のルールや教師対生徒で、いじめ以上にパワハラ的な話が出ているし、教師相互のパワハラの問題もある。教師の不祥事もこのところ非常に多いし、危機管理、例えば、集中豪雨の時に子どもを帰すか学校に留めておくかという話もある。先日のアジアジュニア陸上競技選手権大会で、高校生にボランティアとして大活躍してもらったが、ああいうものをもっと教育に取り入れていくとか、IoTやグローバル化もそうだが、他にも近年目立ってきていることをどこまで取り入れていくかを考えると、前回の綱の足りないところ、更に新しい課題にどう対応するかとなる。そういう目線でいろいろなことを見ていただく。この他、子どもの貧困もある。</p>
竹中委員	<p>少子化について、県立だけで考えるというより、私立の方も意見調整を行う必要がある。</p>
知事	<p>総合教育会議で議論する際には、私立も含まれる。</p>
近藤委員	<p>LGBTにしても、貧困にしても、どこまで先生方が介入していくかはすごく難しい。何もかもが先生の仕事になると、負担が増える。ただ、IoTとかで負担が軽減できるとバランスが取れると思う。</p> <p>パワハラにしても不祥事にしても、先生方のストレスの対処がうまくいっ</p>

	<p>ていないのではないかと思います。不祥事もどこから来ているのか突き詰める必要がある。場当たりの議論は良くないと思う。</p> <p>今の若い先生方は、上の先生方に相談できない、とよく聞く。教育指導の基本はこうだ、というのがあると、質の低下はないのではないかと思います。</p>
知 事	<p>どうして相談できないのか。</p>
近藤委員	<p>怖い、恥ずかしいという思いがあるようだ。ギリギリまで自分の中に抱え込んでしまう。</p>
知 事	<p>教室の中で万能でいなければならないと自分を追い込む必要はない。そうすると、人に聞きづらくなる。</p> <p>学校にはマニュアル的なものはあるか。</p>
近藤委員	<p>把握していない。</p>
知 事	<p>以前、何かと言うと学習指導要領を持ち出す先生がいた。国体でリハーサルを行っている際、あまりにも不揃いだったため、先生に、一糸乱れないようにやってほしいと言ったところ、「学習指導要領には、子どもに自由にのびのびとやらせよとは書いてあっても、一糸乱れないようにとは書いていない。ないものをやれと言われてもできない。」と言われた。</p>
稲本委員	<p>いま、学校教育で一番ずれているのは、AI。グローバルでなおかつ電子媒体による変革が起きているが、学校の先生はそれについていけないのではないか。大学で教わっていたことが今の世の中と全くずれている。</p> <p>先生が変わらなければいけないことを先生が認識し、先生を教育するシステムを本格的に作り直す必要がある。社会の動き、英語教育、スポーツが変わったりしているが、その変化に学校の制度が追い付いておらず、しかも、相当な差がある。AIとか電子媒体の変化を日本の最先端で教育に対応する子どもを育てるための先生をつくることで特徴付けるとよい。また、日本の人口が減少する中で、海外からの呼び込みや海外へ出ていくためのグローバル教育。地域と一緒にあって大人も子どもも外国の人も日本の人も異文化交流を行うとよい。</p> <p>また、臨機応変に対応する力を身につけるために一番よい方法は、自然と関わることだと言われている。アメリカの歴代大統領でも、優秀な大統領は皆、小さい頃は自然と遊んでいたと言われている。岐阜は清流の国であり、自然がたくさんあるので、岐阜県として特徴を打ち出す必要がある。以前見た資料では、自立や共生、自己実現と記載されていた。共生とは、岐阜の場合は、自然との共生。岐阜しかできないこととして、清流や山がたくさんある自然を生かして、自然・環境教育をやるとよい。</p>
知 事	<p>先生の方に学びたい欲求はあるか。</p>
稲本委員	<p>強制的にでもやるべき。</p> <p>何年か前、乗鞍にある青年の家で、教員1年目の研修に参加したが、正直、この子たちが教えるのかと思った。携帯電話しか持たないため、固定電話が取れない子がいたり、どう見ても学生気分が抜けきれておらず、この人が担任を持ったりするわけで、物凄く危ないと思った。</p> <p>本人は望まないかもしれないが、かといって、先ほど話があったように、相談するかというと、なかなか上の人には相談しない。世代が違うという感覚があるのかもしれない。その人たちが若い世代で担任を持たなければなら</p>

	<p>なくなったりするので、意識改革を本気でやる必要がある。</p> <p>先生の教育システムはあるのか。団塊世代の先生方が辞められ、若い世代へのバトンタッチはどのように行うのか。意外とうまくいっていないと思う。</p> <p>先生が先生としてどうやっていくか。先生は学ぶ機会がない。大学で学んだくらいで現場で多少、教育実習をやった程度では育たない。本気で考える必要がある。</p>
知 事	<p>皆さんが教頭先生や校長先生になる方の面接をされると、やはり今のような感想を持たれるのか。</p>
稲本委員	<p>私は、面接では、いつもとんでもないことを訊く。例えば、岐阜県は日本で何番目に森が多いところかなど。</p> <p>想定外のことを訊くと、大抵の先生は答えようがない。想定内の質問には、とてもよく考えてきている。</p> <p>学校をオープンにするのは意外に難しく、成功している県はほとんどない。それがうまくできれば、岐阜県は特別な県になれる。</p>
知 事	<p>産学については、このところ企業サイドから学校との接点を厚くして、かなり積極的に取り組んでいるのではないか。</p>
竹中委員	<p>産学といっても、高校、大学、研究所といろいろなつながりがある。私どもも、大学や研究所だけでなく、専門高校ともいろいろなつながりを持ちたいと思い、接触を始めている。</p> <p>先生方は、マニュアル化するといってもなかなか難しい面がある。どこの会社でもよくやるのは、徒弟制度。新しい人が入ったら、2～3年は先輩が必ずついて、ある一定のところまでは相談相手になりながら教えていくという制度。働き方の現場を変える必要がある。</p>
野原委員	<p>新任の先生に対して、校内研修は行っているか。先輩の先生方や研究授業等で育てているとは思いますが、見直しの必要があるのではないか。</p>
稲本委員	<p>地域の人がどれだけ学校に関わるかは、例えば、農林高校で作ったものを売ったりしているが、普通科はあまりそういうことがない。地域と関わるという言葉だけでなく、学校の先生や生徒たちに言われれば話をしに行くので、そういうものも活用するとよい。</p>
野原委員	<p>小中学校では、コミュニティ・スクールということで広まっているが、県立についてはいろんなところから生徒が集まってくるので、どう考えていくかは今後の課題だと思う。</p>
稲本委員	<p>国の方針で、カリキュラムは公立でもある程度融通が利くようになるのか。</p> <p>世界的には、公立の高校でも、相当、単位制が導入されている。かなりユニークなことで教科を修めたことになる。例えば、ボランティアをやるとか、数学が好きな子はどんどん数学をやるとか。本当の意味で個性を伸ばすための単位制を行うには、カリキュラムの自由度を増やすしかないのではないか。</p>
教 育 長	<p>いろいろご意見をいただいたが、今後、生徒数が急速に減少する中で、高校の入学定員の検討が必要だろうと思われる。</p>

	<p>それから、ICTについては、既に国からも指針が出ており、地財措置もあるので、積極的に取り組んでいきたい。</p> <p>エアコンは、もう少し深掘りし、予算がどの程度必要か等を検討していきたい。</p> <p>産業教育の関係では、現場の先生に意見を聞くと、現場に出ている生徒は意識が高くなり、進学を目指すという意識も出てくる。ただ、専門高校の弱点としては、普通科目が弱く、大学の授業についていくのに苦労している。複線的なルートは必要だろうと考えている。</p> <p>新採教員は、1週間に1回、丸1日研修に出られるようにしており、その間は、代替教員を入れている。あるいは、退職校長が指導教官のような形で指導するシステムを導入している。</p> <p>足りない部分は、議論して深めていきたい。</p>
知事	<p>よい機会なので、洗いざらい議論するとよい。</p> <p>資料では、「地域社会人」や「清流の国」という言葉を使っているが、もっと岐阜らしさを率直に深掘りして出していく。</p> <p>現代的な課題とそれに対する業務量のバランスをどうするか。</p> <p>オール岐阜という意味では、産業との連携もあれば、私立・公立の問題もあれば、地域の優れた方々にどう教育の世界で貢献していただくかもある。</p>
稲本委員	<p>岐阜らしさとして、岐阜の教育は他と違うというキャッチコピーが必要。</p>
清流の国推進部長	<p>それでは、これをもって本日の会議を終了する。</p>